

学術部おすすめ！読んでおきたい特集記事

デンタルダイヤモンド／2016. 5月号（中島副委員長 記）

○実践歯学ライブラリー“開業医でできる？できない？口腔外科”

（松尾 朗、北野智丸、竹田直樹、大亦哲司）

＊まず、自院で処置が難しいと思われる症例は、「様子をみましょう」ではなく、適切な治療のできる医療機関への紹介を行うことが必要であること。次に、どのような症例が紹介すべき症例でどのように紹介状を書くのか、どのような医療機関に紹介すると良いかを提示している。いろいろな立場の診療所が具体的に紹介した症例を転帰まで紹介しています。紹介すべき症例がみえてきます。ご一読ください。

○新連載：知れば納得!! 総義歯治療のコツと勘どころ～下顎総義歯の吸着の診断～（阿部二郎）

＊「誰でもできる下顎総義歯の吸着」で有名な阿部先生の連載です。吸着義歯の成功率は80%、吸着させることのできない症例を見分けるための8診査項目が記載されています。治療開始以前に、治療の到達点が読めるので、患者さんの信頼を得ることができると思います。一読をお勧めします。

歯界展望／2016. 5月号（小野委員長 記）

○若手歯科医師のための実践的エンド講座 Wave One Gold の臨床（東京都開業 阿部 修）

＊2012年にSingle file システムとして「WAVE One」が発売された。その後出た「Reciproc」とともに1本のファイルで根管拡大が終了すると注目され、かつてない空前の大ヒットとなっているらしい。これらは、専用のモーター「X-Smart Plus」購入が必要となるため、躊躇されている先生も多いと思う。2013年に展望の特集「WaveOne」の安全な使用法を紹介したが、私自身Single fileを現在まで取り入れていない。シンプルなケースでは有効かと思われるが、すべての症例で同じように利用できるとは思えなかったためである。昨年、新しい「WaveOne」、 「WaveOne Gold」が開発された。これは、材質、断面形態、テーパ度、採用号数に至るまですべてが新しくなった全く新しくなったファイルだそうだ。従来と変わらないのは、その操作手順と回転運動のみだそうだ。ここまで変えられると、今までのファイルを使用していた人は戸惑うかもしれない。しかし、改良され使いやすくなっているようなので興味のある、また今までのファイルを使用していた先生はご一読の価値があると思います。

ザ・クインテッセンス／2016. 5月号（岡崎副委員長 記）

○リスク評価に基づくう蝕管理の全貌 CAMBRA（渥美克幸）

＊学校歯科保健における「要観察歯(CO)」の予後を調査してみると3年以内に80～90%がう蝕と診断されたとする報告がある。そのようなう蝕リスクを評価するものとしてカリフォルニア大学サンフランシスコ校で2002年に提唱されたCAMBRA(Caries Management By Risk Assessment：リスク評価に基づくう蝕管理)がある。0～5歳の乳幼児と6歳～成人を対象にそれぞれシステム化された医療面接と口腔内検査(エックス線写真や唾液検査なども含む)による評価からそれに応じた処置がプロトコル化されており、シンプルで導入も平易である。しかし、唾液PH緩衝能が含まれていない、歯磨剤フッ化物濃度の日本での制約、根面う蝕への効果など課題もある。

○“今”知っておきたいキーワード ロコモティブシンドローム（渡邊 裕）

＊ロコモティブシンドローム(Locomotive Syndrome、運動器症候群、略称：ロコモ)とは、運動器の衰え・障害によって、要介護になるリスクが高まる状態のことで、超高齢者社会を見据え2007年に日本整形外科学会から提唱された概念である。これまでは運動器障害の原因の多くは外傷や感染症であったが、加齢や生活習慣という要因が加わった。関連用語として、加齢に伴う筋肉の衰えと身体能力の低下を表す「サルコペニア」、生理的予備機能が低下し生活能力が失われる「フレイル」がある。いずれも予防には運動と栄養の摂取が重要である。ちなみに、ロコモを防ぐ運動としてバランス能力を付ける「片足立ち」と下肢筋力をつける「スクワット」などを推奨している。

歯科評論／2016. 5月号（居樹副委員長 記）

○特集／新時代の歯周病学を知る ― 明日からの臨床につなげる情報アップデート

（天野敦雄 永田英樹）

＊歯周病の病因論昔と随分変わってきました。本特集は近年の発展めざましい感染論研究を中心に、現在の歯周病学についてわかりやすく解説しています。あらためて歯周病の病院論を整理するのにもってこいの企画です。ずっと以前歯科大学を卒業された先生はもちろん、最近卒業された先生、歯科衛生士、歯科技工士みなさんもぜひ読んでいただきたい内容になっております。

○【平成28年度社会保険診療報酬改定の注目項目から】

糖尿病を有する歯周疾患患者の歯周基本治療に先行して行う局所抗菌薬の投与について

（工藤値英子・三辺正人）

＊歯周病は糖尿病の6番目の合併症です。糖尿病患者は歯周病に罹患しやすく重症化しやすいといわれていて、2型糖尿病の患者は非糖尿病患者に比べて歯周病の発症率が2.6倍高くなるとの報告もあります。本年度の社保の改定より「歯周ポケットが4mm以上の歯周病を有するものに対して、歯周基本治療に先行して計画的に特定薬剤の注入を行った場合は、歯周疾患処置として算定する。」とあり医科歯科連携を必要としています。これからは注目される分野だと思いますので、ぜひチェックしておいてください。